



## ロータリアンとは

国際ロータリー 第2650地区

2002～2003年度 ガバナー 岡村 吾郎

ロータリアンとは、同じ花瓶に飾られた花束の様な者。赤い花、白い花1本1本の花は異なりますが、その1本1本の花が集まってひとつの美しい花束となり、人々の心を慰め、心を癒してくれるのです。

ロータリークラブには、色々な人が入会されます。全員が徳ある人であるという事はありません。未熟な者も入会して先輩のロータリアンと一緒に食事をし、語り合い、奉仕活動を続けているうちに、立派なロータリアンに育っていくのがロータリークラブの特徴なのです。

私達はお互いに奉仕の道を通して人格形成に努力しましょう。

一般の方から「ロータリークラブとはどんな団体ですか」と尋問されたら、どの様に答えま  
すでしょうか。

奉仕とは、相手の身になって真心を尽くすことです。その奉仕の出来る人は、経済的にも、精神的にも、又時間的にも余裕のある人をいうではありません。相手の立場を思いやる奉仕の心を育み、真心を尽くすことのできる人、即ち慈愛の心のある人がロータリアンであり、この様な人々の集まりがロータリークラブであるのです。友情を培い、自己を向上させ、そして奉仕活動を通じて心身をフレッシュにし、明日への活力を甦らせてくれる場です。

お金を集めるのではなく、集まる様なクラブになること。  
会員増強は増やすのではなく、増える様なクラブにすること。  
魅力ある、誇りあるロータリーに。

— (差出人不明の手紙より) —



# 第93回国際年次大会(バルセロナ)に参加して

国際ロータリー第2650地区ガバナー 岡村吾郎

「情熱の国、大地に照りつける太陽、魅力的、心踊る言葉、思うだけでも未だ目にしたことのないその街並みが、フラメンコが、闘牛が目の前に浮かんでくる」そんな国スペインの第三の町バルセロナに於いて、国際ロータリー第93回年次大会が、2002年6月23～26日に開催された。

バルセロナは、カタルーニャ広場 Placa de Catalunya を中心にして、狭い通りがごちゃごちゃと入り組んだ旧市街を包み込む様に新市街が広がっている。古都京都を思い出させる旧市街は、中世の面影を残し、石畳の道に沿って13～15世紀に築かれた邸宅が並んでおり、その中に教会、博物館、美術館がひしめきあっている。新市街地は整然と区画され、世界的に有名なガウディの代表作サグラダ・ファミリア聖堂が天空に向かってそびえ建ち8本の塔の曲線、キリストの降誕を描く彫刻を眺めていると、まるで生き物の様に血が流れ、心臓が脈打ち、今にも飲み込まれそうになる。とにかくこれ以外に芸術品の多い町でピカソ美術館、グエル公園、グエル邸、ミロ、ダリ、アントニガブリエスの作品が目を楽ませ

てくれる。われわれを魅惑したこの街で、年次大会に先立って23日早朝より日本親善朝食会が開催された。600人ものロータリアンの参加があり、やぁやぁと久しぶりに会った友と親交を深め合った。午後3時より山腹にあるオリンピックスタジアムに於いて開会、前奏音楽、地中海の祭典、地元の音楽家、アクロバット、大道芸人のエキサイティングな催しの後、ロータリー加盟国146ヶ国の国旗入場、スペイン国歌斉唱、アメリカ国歌斉唱に次いで開会宣言の後、リチャードD・キングRI会長が相変わらずの高い声で挨拶、次いで「人類が私たちの仕事」のビデオ上映の後、ジェリー・キング氏へロータリー名誉賞が贈呈された。3日目(火)第4回本会議の後、以前より人相がソフトになった元ソビエト連邦大統領、ゴルバチョフの基調講演がありキング会長より国際ロータリー奉仕賞が贈呈された。4日目(水)は次年度ピチャイ・ラタクルRI会長の家族紹介の後、“慈愛の種を播きましょう”とのスピーチがあり、「闘争の道は整備されているが、平和の道は荒れている、これをロータリアンで



国際大会会場(モンジュイク丘のオリンピックスタジアム)

って美しくしなければならない。己は水となり、風となり、消えていこうとも惜しげなく慈愛の種を播きましょう」と宣べられた。午後8時、地中海交響楽団による蛍の光を後に閉会した。

今年度年次大会の登録者数は、146ヶ国の地域より19,004名で、アメリカ5,663名、日本1,577名、スペイン767名であった。

振りかえてみると、情熱的なアトラクションを期待していたが、時代が変わったのか私が想像していたよりも大会の雰囲気は質素でソフトに感じた。



ピチャイ・ラタクル夫妻と

## ガバナー補佐を拝命して

ガバナー補佐 石田喜之(大津RC)



2002～2003年度国際ロータリー2650地区ガバナー補佐を拝命いたしました大津ロータリークラブの石田喜之と申します。どうかよろしく願いいたします。

すでにご承知のとおり、ガバナー補佐制度は当2650地区として本年度はじめて導入される制度であり、会員の皆様にはなじみが薄いかもかもしれませんが、元来この「ガバナー補佐」制度は国際ロータリーが提唱する「地区リーダーシップ・プラン」(DLP District Leadership Plan)で定められた制度であり、手続要覧にその任務が定められております。要約すると

- ・ロータリー年度開始前に次期クラブ会長と会合をもち、次期活動の指標を検討すること
  - ・担当のクラブを定期的に訪問し、クラブの活動について話し合うこと
  - ・ガバナー公式訪問を受けるにあたっての計画策定に助力すること
  - ・ガバナーが常にクラブの活動の進捗に通じるよう計り、助言すること
- 等々であります。

昨年12月に岡村吾郎ガバナーよりご指名を受け、度重なる打ち合わせや会長エレクト研修セミナー(PETS)等への参加を通じて、岡村ガバナーが提唱される「慈愛を常に心して私たちが歩いた後に平和の花を咲かせましょう」のスローガンのもと、私が担当させていただく滋賀県下22クラブが効果的なロータリークラブ活動を行っていただけるよう少しでもお力になればと思っています。すでに年度開始前の6月に滋賀県下22クラブの会長様と会合を持ち、ロータリーの友情の輪を広げ、その意思疎通を図っているところであります。どうか、この一年間が岡村吾郎ガバナーのもとすばらしい一年にあるようにご協力をお願いして就任のご挨拶とさせていただきます。

## 緒についたばかりのDLP

ガバナー補佐 増田善宏(福井RC)



当地区においては、地区リーダーシップ・プランは宮崎G年度(1998～1999)から検討が始まり、今年度(2002～2003)岡村ガバナーの時に正式に発足しました。準備として2001年11月には千R I元理事、財団トラスティーと、小谷R I元理事のご両名から、ガバナー補佐としての心構えや実際の内容等について詳しいご講義をうけたのであります。その後、中野パストガバナーや岡村ガバナーから随時お教えを受けたのであります。私は福井県下17クラブを担当することになりました。今年度、岡村ガバナーは地区内93クラブを全て公式訪問される予定でございますので、私どもは具体的にはその事前準備や各クラブとガバナー事務所との連絡調整をする事になっております。本来ガバナー補佐の役割は極めて多く重いものであります。今年度は過渡期でもあり、役割は限られたものとなります。

さて、岡村ガバナーが唱えておられる目標①人格形成に魅力的なロータリークラブを②会員増強、拡大で純増年5名を③情報を提供して新会員の教育を④クラブの活動はボトムアップをの四つを十分に吟味して周知徹底を図って参ります。

また、ピチャイ・ラタクルR I会長メッセージからは、慈愛の種を播く機会として①自分のクラブに②自分の職場に③地域社会に④広く世界に、とありましたが、私は③の地域社会に慈愛の種を播くことが重要と考えています。これは社会奉仕を念頭におかれたものですが今迄地域社会と云われたのはあまりなく、極めてユニークであり注目して参りたいと考えています。いずれにしましても今年一年間、岡村ガバナーを補佐していく決意であります。

## 本音で語ろう 年に一度のIMで

ガバナー補佐 南野寛二（檀原RC）



2002～2003年度は大変わかりやすいガバナーメッセージが示されました。

「慈愛を常に心して、私たちが歩いた後に平和の花を咲かせましょう」

ロータリークラブの発展は如何にあるべきか、四つの重点項目です

- 1) 魅力的なロータリークラブに（人格の形成）
- 2) 会員増強、拡大（新入会員純増年5名）
- 3) 新会員に教育を（情報の提供）
- 4) クラブの活動はトップダウンではなくボトムアップ

この目標に向かっていよいよ挑戦です。

会員相互の交流は、地区大会かIMしか実質的にはありません。しかし地区大会では交流意志疎通はほとんど不可能です。残されたのはIMの場しか無いのではないかと思います。是非ともIMの場を活用したいものです。

クラブフォーラムのテーマ「これからのロータリーはいかにあるべきか」=大きく目を、心を開いて=についてクラブ内で活発に論議をしていただきたいものです。

ロータリーの現況は想像以上にきびしいものと認識すべきと考えます。年一回のIMの場で本音の激論を述べ合って、ロータリーの原点を見つめ直し、われら日本のロータリアンの歌にあるように、今こそ日本のロータリークラブ創りに“慈愛の種を播き”、活性化に向けて、アイディアを出すべきだと思います。各クラブでの立派な施策は大いにまねて取り入れる勇気と積極性が必要ですし、そのためにIMの活発な本音の論議が是非欲しいと強く希望するものです。

## 何ともやさしい合掌

ガバナー補佐 森 泰健（福知山RC）



スポットライトに照らされた、何ともやさしい合掌の求道者、ピチャイ・ラタクルRI会長の微笑、地区大会前夜のRI会長歓迎晩餐会の印象深い姿でした。

メッセージは、実に心に染み込むような感動をおぼえました。それは合掌でのご挨拶に東洋人としての、言い難い親近感に加えて、仏陀の慈悲にも通ずる“慈愛の種を播きましょう”とのターゲットを示されたのであります。

- ロータリーは慈愛の種を播く無数の道を示す - と我々に示唆と激励を与えておられます。即ち職業奉仕、国際奉仕、社会奉仕、若者たちが現在の困難を乗り越えて、明日の指導者になれる様に応援する。またポリオ撲滅に関する私たちの誓いを完遂する、など・・・。

私たちのクラブや地区内でも、身近なことの改善から、地域社会に対する貢献にいたるまで、さまざまな方法があります。

それには、私たちは新しいプログラムを作る必要はないと言われております。現在あるプログラムをより綿密に、奉仕の実行をする。そして奉仕が愛のまごころから発し、自分の経験に裏打ちされている限り、私たちは単なる小切手を書くではありません。私たちは自分の人生にロータリーを書きこむのです。

・・・なんと感動的なメッセージではありませんか。

私たちは、岡村ガバナーが四つの目標の2番目に掲げられる、会員増強拡大がロータリークラブ発展に資することに注目すべきでしょう。慈愛の種を播く同志を増やし、奉仕の喜びを分かち合いたいと希うものであります。



## 変化が求められるロータリー

ガバナー補佐 寿栄松憲昭（京都RC）



ロータリークラブの会計から支出の内訳を見てみますと主として奉仕活動に配分されると思われる各委員会活動費や財団・米山の寄付金の合計は、全支出のうち20%。例会費や家族会などの親睦会費は40%。RIや地区・RCの事務諸経費で40%程度でしょう。簡単にいえば、奉仕活動：友愛・親睦活動：事務管理に1：2：2といった配分です。

これでよいのでしょうか。ロータリーは綱領で示しているように「奉仕の理想」を実現するための集団です。いまロータリーの目標かと思うくらい会員増強が訴えられています。確かに組織の活力を維持するために増強は必要でしょうが、経済面で増強が必要なのであれば、今一度考え直すときではないかと思えます。

難しい「手続要覧」からも判るように、複雑で過度な管理のための費用は40%にもなる事務諸経費になっているし、いわゆるゆサロンに陥りやすい友愛・親睦活動に40%の費用をかけています。いま思い切った変化をして若い活力ある会員にも魅力ある活動をすることによって、結果として会員が増強され、ロータリーが活性化することが求められています。

「エバンストン便り」に、新しいRCの創立をラタクルRI会長が承認したという小さい記事が出ています。このデンバーにできたe-クラブは、従来のRCと同じ活動をインターネットによって、毎日24時間行われます。多分管理・友愛の費用は激減するでしょう。

「慈愛の種を播くに無数の道」があり、「ロータリーをより簡素に」という今年度のメッセージに応えるために、「会員自らがボトムアップで」知恵を出してゆきたいものです。

## ガバナー補佐として

ガバナー補佐 吉村好司（京都山城RC）



今年度第2650地区のガバナー補佐、吉村好司でございます。京都南部地域の亀岡、亀岡中央、園部、京都乙訓、京都西山、宇治、宇治鳳凰、京都市陽、京都八幡、京都田辺、京都山城の11クラブを担当させていただくことになりました。至らぬ者でございますが、どうぞよろしくお願い申し上げます。

先ず仕事はじめに、去る5月21日から6月12日まで、担当11クラブの例会に出席させていただき、前年度今年度の会長・幹事の皆様にお目にかかりご挨拶と意見の交換をさせていただきました。いずれのクラブも会員数60名を超えるところは無く、27名のクラブもございます。各クラブとも同じ様な問題を抱えながら、会長以下会員の皆さんが、和気藹々と例会や委員会に出席されているお姿を拝見いたし、敬服且つご同慶に存じた次第です。

ビチャイ・ラタクルRI会長が、本年度提示されている、数々のテーマの実践を目標に、私は岡村ガバナーと各クラブ会長との間であって活動計画や目標設定などに関して何かお役に立つ事があれば、ご相談にのらせていただくというところから始めさせていただきます。

国際ロータリーでは1997年から各地区にガバナー補佐の制度を推奨してまいりました。わが第2650地区では、実施期限すれすれの今年度から採用されたわけでございます。岡村ガバナーのご指導と、皆様のご支援をいただきながら、重責を全うさせていただき所存でございます。有り難うございました。

## 「青少年委員会の活動内容」

地区青少年委員会委員長 森定秀夫（京都西北RC）

1998年版手続要覧の第8章新世代のためのロータリープログラムがあります。これは青少年委員会が担当する役割です。そこには、はっきりとこの委員会の使命、ミッションということで0歳から30歳までの新世代に対するニーズを認識して、彼等の未来を確実なものにするという事を実現するために活動する委員会であると規定されています。ミッションがはっきり示されているのは、この委員会だけだと思います。子どもを含む若者が社会に役立ち、また善良な市民としての責任をもつ大人に育て欲しい事が目標です。

ロータリーの綱領の中に、ロータリアンは、道徳、倫理観を高めなければならないとあります。若者が、道徳、倫理観をしっかり持って、自分も大事にして、相手も大事にして他とともに認識し合いより良い社会を築く為に、貢献できる人材を作るということ、つまり、この地区の社会奉仕を通じて、人材育成をすることが、この青少年委員会の目的だと思います。

青少年委員会は7月に第1回青少年委員会会議を開催して、その時に「新世代のための会議」の開催の意義と「9月は新世代のための月間」について説明します。そこで、第1番目には、新世代のための会議の開催であります。それはこの地区内の、全クラブで開催する事を希望します。

1月の第2回青少年委員長会議の時に、ライラの募集要項とライラの本年度の方針を説明する予定です。従って、第2番目には、大変なエネルギーと時間がかかる地区合同ライラであります。来年の5月頃に開催する予定です。ライラとは、(Rotary Youth Leadership Award)のことで、「ライラは、若い人々を対象として、地域社会における青少年指導

## 「奉仕を通じての親睦」

地区ローターアクト委員会委員長 長崎一幸（舞鶴東RC）

ローターアクトの目的は、青年男女が個々の能力の開発に当たって役立つ知識や技能を高め、それぞれの地域社会にお

者としての資質の向上と善良な市民としての責任感を啓発し、限られた時間の中で、指導力を発揮す

る技術、さまざまな分野の知識の吸収、積極的に行動する習慣、自主性を発揮すること等々の資質向上などを目的としております。当地区における新世代ライラのプログラムは、地域の中で将来指導的役割を果たしていこうとする新世代の若者とロータリアンが2泊3日の研修の中で、お互い「連帯と思いやり」を通して感動を生み出し、真の人間関係を築くことを目的としています。また、今年度はライラ受講生のフォローをどうするかを、当委員会の課題として、取り上げたい。

第3番目には、9月の新世代のための月間において「各ロータリアンは青少年の模範」というスローガンがありますが、従来、紙のれんを送付し、例会場に貼って頂くよう依頼しています。9月の月間中は、例会毎に指示して、クラブの皆様にも、スローガンを理解して頂けるようお願いいたします。また、週報にも毎週記載して頂き、月間の時は各クラブの青少年委員が卓話などに対応して頂きたい。また、年数の浅いクラブに関しては、地区青少年委員会の担当者が卓話させて頂きませ

ず。第4番目には、国際ライラの参加です。今年度のライラ受講生の中から、1名を選任して申し込む予定です。また、インターネット委員会に協力していただいて、今年度のライラ活動の様子を載せさせて頂きます。

以上が今年度の青少年委員会の活動方針です。今後ともよろしくお願い致します。



ける物質的、あるいは社会的ニーズと取り組み、親睦と奉仕活動

を通じて全世界の人々のあいだによりよい信頼関係を推進するための機会を提供する事にあります。そのモットーは、「奉仕を通じての親睦」です。「Fellowship, Through, Service」がローターアクトの標語になっております。

ローターアクトの成り立ちは、1960年代の初頭、世界各地のロータリークラブが社会奉仕プロジェクトとして大学レベルの青少年グループの提唱を開始しました。1967～68年度RI会長ルーサーH. ホッジス氏とRI理事会は、クラブの活動に国際性があると考えました。その結果、ローターアクトは、1968年にロータリークラブの公式プログラムとして承認されました。ローターアクトは提唱ロータリークラブの近隣地域内に居住、就職または就学している18歳から30歳までの青年（大学生は年齢制限なし）で構成されています。最初に認証されたクラブは、米国ノースカロライナ州ノースシャーロットローターアクトクラブでした。数十年後、ローターアクトプログラムは、ローターアクトクラブの強力な国際組織に発展し、170の国と地理的地域におよそ6,400を越えるクラブと145,000名以上の会員を有するまでになりました。そして、RIはローターアクトクラブ退会後、ロータリー哲学と運動をある程度理解した若者が有望視されながら、ロータリークラブに入会することが容易ではありませんでした。2002年RI理事会はローターアクトからロータリークラブ会員への移行をより容易にするため、年齢30歳から35歳の会員に対し会費を免除する事をロータリークラブに奨励しました。そして今、国内におけるローターアクトの活動は、常に奉仕を通じて親睦をテーマに、地区内外において活動しております。その数は、35地区、約440クラブ、そしてアクターは、約6,000人です。

では、RI2650地区の概要は、当地区は、福井県、滋賀県、京都府、奈良県の4府県からなり、クラブ数は昨年、認証状伝達式を迎えた洛西ローターアクトクラブを含め38クラブ、国内最大のクラブ数を有し、約620名の会員が活動しております。地区活動においては、地区内各クラブの会長をはじめ、役員、会員に対する指導者講習会の開催、国内、他地区との

情報交換交流会、そして、海外研修。昨年度の海外研修は、残念なことに、思いもよらぬ世界を揺るがすテロ事件により、止むなく、中止となりました。彼らアクターは、其々の事業を通じて真剣に活動し、研鑽に励んでおります。また、ロータリーにおける事業への参加協力にも積極的に取り組み、WCSへの参加、統一ライラへの参加、協力、ロータリーの地区大会における友愛の広場の企画、実行、そして提唱クラブとの奉仕事業等への参加協力と其々の事業に真剣に取り組む活動しております。また、各クラブにおいては、自然破壊、ゴミ問題等への環境問題、福祉問題では、介助犬、盲導犬普及、チャリティーへの取り組み、そして世界へ目を向けた奉仕への取り組み、カンボジア難民へのチャリティー、ポリオや地雷問題等、身近な問題と位付け、幅広く取り上げ活動しております。

我々、地区委員会は、提唱、未提唱の各クラブに対して、是非育てて頂きたい、是非提唱して頂きたいと、行動致しております。次代を担う青少年の育成は、ロータリアンの願いです。ローターアクトクラブは確実に成長し、たくましいアクターを送り出し、卒業後、社会において多職種にわたり、リーダーとして活躍しています。また多くのアクターがロータリアンとして、現在ともに活動しております。この不況の中、彼らもその波に揉まれ、日々仕事に追われつつもアクト活動しこの状況の下、輝きを失わず、一人一人がさらなるレベルアップと、クラブの活性、地域での活動にと取り組んでおります。今の若い者はと、批判的に言われる事もありますが、ロータリアンの良きパートナーとして接してやってください。そして、常に明日を見る目でもって、アクトを支えてやってください。混迷の時代、不透明な時代、今こそ次代を引き継ぐ若者の育成に、力を注いでやってください。我々、地区ローターアクト委員、一人一人が彼らの熱い思いを身近に感じ、土日もなく、地区行事、ゾーン行事、各クラブ行事やその他事業に、自クラブの事業をはるかに上回るハードなスケジュールをアクターとともに、福井、滋賀、京都、奈良と行動しております。これからもより一層、ローターアクト

委員会へのご協力とアクトの育成にご協力をお願い致します。

## 「インターアクトと共に社会奉仕と国際理解」

地区インターアクト委員会委員長 加藤陽一（京都西RC）



本年度2650地区インターアクト委員長をさせていただくことになりました京都西ロータリークラブの加藤陽一と申します。そして、誰よりもインターアクトクラブを誇りに思っている一人です。私は、今から35年前の高校一年の春に西京商業インターアクトクラブに入部しました。きっかけは顧問の先生に「いいクラブがあるからはいらないか」と誘われたことでした。当時、高校に入ったら英会話がしたいと思っていたので、外人の講師がいるインターアクトに入ることになりました。それから高校三年の会長時代に海外研修としてボストンに行かせてもらい、ホームステイや学校での生活など当時の高校生としては貴重な経験をさせていただきました。縁とは大変不思議で、その後スポンサークラブの京都西ロータリークラブにお誘い頂き、母校のインターアクトクラブのお世話ができることになり、少しでもその当時の恩返しができるくらいいいなと思っております。

皆様も同じ考えとは思いますが、健全な青少年を育てなくて私たちの未来はないことでしょう。そんな願いを込めて今から40年前の1962年10月28日、世界最初のインターアクトクラブが、アメリカフロリダ州のメルボル高校に設立されました。14歳から18歳までの青少年のための奉仕プロジェクトが誕生したのです。社会奉仕と国際理解の二本柱の大きな目的があり、活動を通じて他人に対する思いやりや指導力を磨き自己の完成を図るという崇高な目標があります。

日本においては、アメリカに設立された翌年の1963年に日本で最初のインターアクトクラブが西京商業高校に仙台育英高校と同時に出来ました。現在、当2650地区におきましては、17校のインターアクトクラブが地域社会において活動しております。

当地区の主な活動の1つとして、海外研修があります。

今年も昨年に引き続きタイに行きます。バンコクから飛行機と車を取り継いでカンボジアとの国境沿いの村に民泊をしながら交流を深めに行きます。タイの中でももっとも年収の少ない村ですが、昨年の研修では彼らとの交流でアクターにすばらしい感動を与えてくれました。人のやさしさや人間の本来持っている姿に気づいた研修でもあり、昨年の参加者たちは全員感動させられました。毎年感動の話はありますが、聾学校に補聴器を送る募金活動をされた話もあります。三年前の研修で、聾学校に行った際に、補聴器が大変不足して困っておられるとの話を聞き、じっとしておられなかった普通の子供生徒だったアクターが仲間呼びかけ暑い夏の日々に募金活動をされました。そして、その募金で補聴器を買ってタイに届けられた話は私たちを感動させてくれました。その後、タイへの奉仕活動を目的とし、NPOを立ち上げられたそうです。また、彼女の妹さんもインターに入って海外研修に行かれ、今年は青少年交換でアメリカに留学されたそうです。

いろいろな経験は人の人生を大きく変えます。特に海外研修はアクターにとってすばらしい収穫をプレゼントします。

今年も期待と夢をもって17校の代表と一緒に行ってきます。

今のアクターに次のことを伝えたいです。「もしあなたが幸せでありたいなら、周りに幸せを与えてください。自分だけのことを考えている世の中、平和になりません。インターアクトはそんなことを考え社会に奉仕し世界に目を向けていくクラブです。」

是非、あなたの近くの学校にインターアクトを作って一人でも多くの若い世代にチャンスを与えていただきたくよろしく御願致します。



# 財団学友チャリティーコンサートのご報告

財団学友幹事 藤岡智紀



2002年6月2日(日)に京都コンサートホール(京都市北山)のアンサンブルホールムラタにて国際ロータリー第2650地区ロータリー財団国際親善奨学生派遣50周年記念事業として財団学友チャリティーコンサートが開催された。財団奨学生派遣50周年を迎えられたことを祝うだけでなく、この感謝の気持ちをチャリティーコンサートという形にしたものであった。

当日は快晴で、コンサートホールには開演1時間以上前から観客が入り口に列をなし、その中には歴代財団奨学金委員長や懐かしい学友の姿もあった。開場に合わせ、入り口には募金箱を持ったロータリアンが立ち、来場された方々は温かい心のもったお金を募金箱へ快く入れてくださっていた。



コンサートは西村二郎ガバナーの開演挨拶に始まり、総勢10名の学友による演奏は、ピアノ、ヴァイオリン、フルート、声楽と様々で、ご来場の皆様にそれぞれの素晴らしい音楽を楽しんで頂けたのではないかと思います。



コンサート中に、今回最大の目的である募金の贈呈式が行われた。西村ガバナーと財団学友幹事から日本国連HCR協会(国連難民高等弁務官事務所の活動をサポートしている特定非営利活動法人)に収募金30万円の目録が手渡され、後日アフガニスタンへ送られることになっている。



コンサートの最後には出演者と観客により「心の交流と世界平和への祈り」を込めて「ふるさと」の大合唱で締めくくられた。



## ロータリー情報委員会だより

### 職業分類での均衡のとれた会員組織の選出

クラブでの職業分類の原則を守ることは望ましいが、各ロータリークラブが職業分類を注意深く考慮し、現代の事業および専門職務慣行に合わせ、必要に応じて職業分類の解釈を拡大していくことをRI理事会は同意しています。

クラブは、均衡のとれた会員身分を有すべきであります。すなわち、同一職業分類に属する正会員が正会員の10パーセントを超えない限り、その職業分類の下に正会員を選出することができます。

RI定款(第5条2節(b)項)より



さあ行動を!

イラスト:市村 章(相模原中RC)

## 広報・雑誌合同セミナー報告

広報・雑誌委員会 委員長 伊藤哲雄（京都洛西RC）

ピチャイ・ラタクルRI会長の年頭メッセージに「草の根レベルのロータリアンの創意と活力が、私たちの素晴らしい組織を支えています。」というくだりがあります。当地区広報・雑誌委員会では年度早々の活動として「ロータリーの草の根活動を広報する」をテーマに7月6日に広報・雑誌合同セミナーを開催いたしました。梅雨の晴れ間の土曜日の午後、バスターガバナー中野重宏クラブ奉仕諮問委員、寿栄松憲昭ガバナー補佐をはじめ地区関係役員の参加を得て、地区内93クラブの広報、雑誌委員長を中心に総勢約140人のセミナーとなりました。

前半は、「新しいロータリーの友とロータリーのコミュニケーション」と題して新年度を機にロータリーの友編集長に就任された二神典子氏を講師に迎え、来年1月に創刊50周年を控えてリニューアルした「友」について、またクラブの奉仕活動の成果をロータリアンとして対外的に広報するためのコツなどをスライドを交えてお話をいただきました。

後半は外部の報道関係者という立場から読売新聞社京都総局長北村敏泰氏をお招きし、「記者の立場からみた広報」と題して、取材の依頼を受ける記者の思考と行動パターンについて、どうすれば記者をその気にさせることができるか、質疑応答を交えて具体的に現場に即した裏話を披露していただき参加者の関心を大いに惹いていました。最後に中野諮問委員の講評で3時間にわたるセミナーを終えました。

なお、当日は前年度のクラブ広報活動の記録を新聞記事を中心にまとめたものを資料として配布しております。ご覧になりたい方は各クラブの広報委員会にお尋ねいただくか、ガバナー事務所にお申し出下さい。



## 交換留学生と富士山に登ってきました

地区副幹事（国際担当） 木村雅則（奈良RC）



7月7日(日)朝8時半京都出発。学生14人、地区国際青少年交換委員会メンバー5人、ガバナー事務所から私の総勢20人で恒例の富士登山がはじまりました。

台風5号の影響が残りに、天候が心配されましたが（実際は雨＝登山中止を期待していた？）運良く回復に向かい、バスは5時前に富士山五合目到着。そこから歩くこと2時間ほどで七合目の山小屋です。ここ【花小屋】のオヤジはめっぽう強面で、皆ビビっていましたが、二人だけ例外。ベルギーのマイクには夕食のカレーライスのお代わりをしてやるし、メキシコからのナターリアには『ここに残って看板娘として働け！』という始末。本当は優しいおじさんでした。

占有面積肩幅×身長のリヤにシヤモ状態になって暫くまどろみ、4時過ぎ起床。東の空に雲があったものの、それをかきわけての御来光は息をのむ美しさです。

さあ、これからが富士登山本番。七合目からの出発なので次は八合目かと思いきや、次の小屋も七合目。七合目だけでも上下300メートル程の差が有りそうです。上を見、登り、失望...、また上の小屋を目指して登り、ここも七合目、落胆...を繰り返しましたが、確実に頂上に近づいていることは事実。八合目、本八合、八合五勾と過ぎ、最後の鳥居をくぐって、富士山登頂オメデトウ！ 学生、地区委員さんとも以外にタフで予定より早く登ることができました。頂上には山小屋が数軒軒を連ねており、そこで食べたラーメンのうまいこと。

11時半下山開始。下りは楽かと思いますが富士山に関してはあてはまりません。『レッドブラネット』を想わせる赤い砂、石ころ、岩に足をとられ、悪戦苦闘。やはり富士山は遠くから見る山だと再確認した次第。ともあれ、3時半には全員下山。その夜は河口湖畔に泊まって二日分の汚れを落としました。

最終日はワインで有名な勝沼の近くで桃狩りをした後、長野県岡谷で和太鼓の道場に体験入門しました。学生達はさすがにリズム感良く、先生も驚くほど短時間でマスターし、免許皆伝。日本の文化に触れた一時でした。

今回の旅行は全行程天候にも恵まれ、大成功。地区委員会の皆様、たいへんご苦労様でした。



感受性豊かな青年時代に異国で一年間過ごすことで得られる素晴らしい体験の数々。その体験の中でも心に残るであろう富士登山。学生達は折に触れこの日々を思い出し、友情を再確認することでしょう。このような素晴らしい機会を与え続けておられる国際青少年交換委員会の皆様に敬意を表し、報告を終わらせていただきます。

## 地区ロータリー財団研修セミナー報告

財団増進委員会委員長 公文 俊一（京都北東RC）



梅雨の晴れ間の7月13日（土）、地区ロータリー財団研修セミナーが京都宝ヶ池プリンスホテルにて、ガバナー、ガバナーエレクト、小谷RI元理事、宮崎諮問委員様をはじめ、クラブ会長、財団委員長、事務局員のご出席を得て盛大に開催されました。

財団地域コーディネーターの南園義一様をお招きし、ロータリー財団の意義や、充実したプログラム内容、そして、変更点を踏まえての今後の展望について分かりやすくご講演頂きました。また、今年度は「ロータリー財団と感動」をテーマに、財団プログラムの成果と、それによって受けた感動について、教育的プログラム、人道的プログラムの両面からご講演頂きました。まず、財団学友の岡田玲様。岡田様は79年～80年、長浜RC推薦でカリフォルニア大学サンタバー

バラ校に留学、言語障害学を学ばれました。そして、99年の財団学友奉仕賞に当地区より初めて選ばれました。

次に財団増進副委員長の中村翠嵐さんより2年前京都山科RCがチベットへ小学校を建設し、その学用品を新人道的補助金で購入し、現地へ赴かれたプロジェクトを報告して頂きました。

最後にご出席の皆様には「慈愛の種」をお土産にお持ち帰りいただきました。

ロータリー財団への寄付金は、このように有効に使用され、感動的な成果を上げております。ロータリアンの皆様、どうか慈愛の種を播くために、今年度もロータリー財団へのご協力をよろしくお願い申し上げます。



## アンケートにご協力下さい

RI 2650地区においては新入会員獲得への幾多の努力にもかかわらず、1996年を境にして新入会員が減少する一方、退会会員数が増加する形で顕著に会員数の減少傾向が続き、ここ5年の間に1,000名近い会員数を減少させています。

この傾向は当地区だけにとどまらず今のところ日本・世界の勢となつています。これを克服するために、すべてのロータリアンの叡智と力を結集しなければならない時期に来ています。

地区内のロータリアン一人一人に問題を受け止めていただき、その上で地区挙げての議論を願いたく、7月14日の会員増強・退会防止会議でアンケート調査表を配布いたしました。

8月末の回収にご協力ください。

（会員増強・退会防止委員会）

## 参加しよう！インターシティーミーティング

テーマ「社会に慈愛の種を播きましょう」 「世界に慈愛の種を播きましょう」				
第3組 京都市・ 京都南部	(日時) 8月24日(土)	(ホストクラブ) 京都田辺RC	(ゼネラルリーダー) 西村二郎	亀岡、亀岡中央、京都、京都伏見、京都平安、京都東、京都北東、京都城陽、京都桂川、京都北、京都南、京都モーニング、京都紫野、京都市中、京都西、京都西山、京都乙訓、京都洛中、京都洛北、京都洛南、京都洛西、京都洛東、京都嵯峨野、京都西北、京都西南、京都紫竹、京都朱雀、京都田辺、京都山科、京都山城、京都八幡、園部、宇治、宇治鳳凰、34RC.
	(会場) 京都ホテルオークラ	(会長) 田中平八	(実行委員長) 太田伊三男	

テーマ「青少年に慈愛の種を播きましょう」				
第1組 滋賀	(日時) 9月7日(土)	(ホストクラブ) 大津唐橋RC	(ゼネラルリーダー) 財津晃	びわ湖八幡、五個荘能登川、彦根、彦根南、甲西石部、草津、水口、守山、長浜、長浜東、大津、大津中央、大津東、大津唐橋、大津西、近江八幡、栗東、滋賀湖北、高島、野洲、八日市、八日市南、22RC.
	(会場) 大津プリンスホテル	(会長) 吉川静雄	(実行委員長) 江上克介	

第1組のゼネラルリーダーは山崎時雄バストガバナーから財津晃バストガバナーに変更になっております。訂正し、お詫び致します。